
メガネ男子＝萌え

耳たれ黒白パンダ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メガネ男子Ⅱ萌え

【Nコード】

N9841Y

【作者名】

耳たれ黒白パンダ

【あらすじ】

彌生高校に入学してきた朱音ののほくと萌えええ！！な物語。
(うん、あらすじちゃいますね。あらすじの意味自体作者はわかっ
とりません)

入学式

どうも。初めまして。耳たれ黒白パンダです。
よくたれ耳白黒パンダと間違われますが・・・
耳たれ黒白パンダです。

さてさて、初めての小説ですが・・・
作者のなかでは単なるヒマつぶしです。

なので更新も不定期なんです（?ω?、）
まあながーい目で見守ってやってください。
では・・・（タイトルは気にすんなし☆

入学式そうそう遅刻なんて嫌だ。

そう思いながら全力で走った。

「っづあああああああああ！！間に合ったああああああ！！」

「ひっ!？」

おっさん並みに野太い声を出してドカツと椅子に座った私を見て、
隣のメガネ男子（萌えええっ!!）がそんな声を出す。

なんだ、悪いか。しかしメガネはかわいいぞ少年。童顔とかもう最
高だぞ少年!!

「あ、あの・・・竹光朱音さんですよたけみつ あかねね。僕、夕風透ゆうなぎとおるって言います」

しかも僕っこ。なんなのこの子!!最近地味に頑張ってた私に神様
はこんな可愛い子をお持ち帰りしていいと!!（んなわけあるかい）

「夕風君、以後よろしく!!」

「こちらこそ」

むへへへへへ（ry

しかしもう高校生か・・・早いモンだねえ・・・

「えー、新入生のみなさん、彌生高校の一年生としてほk（割愛」

うあゝ・・・なげえ・・・

ただいま校長先生の話聞いてます。

無駄にながいんだよこれがまた奥さん!!

はい、現実逃避。

「これから3年間頑張ってください」
んで入学式終了☆

さあ!! 高校生活だ! 青春だ!! 萌えだ!! ↑

「あっかねえ!!! なんでだっ!!! なんでおまえがっ!!! おまえみてえなバカが私立にっ!!!」

「によ??」

聞いたことがある声がした。そっと振り向けば・・・

振り向けば奴がいた(??ω??)

「どおうううう!!! ななんでだっ!!! なんでっ!!! なんで!!! タジン鍋がっ!!!」

「タジン鍋言うな!!! 田島だっ!!! 田島信之^{たじまのふゆき}だっ!!!」

そう言いながらプンスか怒るタジン鍋。怒るな。美形が台無しだ。

「怒るな、タジン鍋」

「だからタジン鍋ちやう言うに!!!」

お、出た!!! 関西弁!!!

「関西弁萌えええ!!!」

「うん。ほつとこ。うん」

なぜか私にひややかくな視線を向けるタジン鍋。
なぜだいつ!? なぜだっ!?

「そんなこと言わずに・・・」

「みんな、こいつは俺の友達じゃない。ないんだ!!!」
そんなことを言いだすタジン鍋。

ふううくん?? いい度胸してるね。タジン鍋ωω

「タジン鍋」

「ん? 話かけんな」

「私たち・・・友達だよね??? ねえ??? トモダチだよねえ???」
ωω

ごごごつとオーラを出しつつタジン鍋を追い詰めてみる。

「ひいいっ!!! すんまへん! すんまへん!!!」

涙目になりながら謝るタジン鍋。

いやはや・・・これは・・・

「萌えゝえええ！！！！！！！」

「っぎゃあああああああああああああああああああああ！

！！」

そのあとのことはまあ・・・

うん☆

くおまけく タジン鍋の憂鬱

「ああ・・・俺立ち直れねえ・・・」

作者「うん。これから頑張れ(ぽんぽん)」

「うん・・・っえ??? 誰!?!」

作者「君の猫耳かわええなあ♪ばっち写メ」「いやあああああああああああ！！！！消せっ！！！！いますぐ消せ！！！！」

結構大変なことに巻き込まれました。

「ふうんふうん♪」

ども。朱音ですえ。

ただいま「が〇〇り君」食べながら帰ってます。うん、夕日がきれいだー!!

「あ、朱音さん」

「ん。なんだい少年よ」

おどおどしながら私の制服のすそをひっぱるメガネ君。うん。こりや鼻血もn（ry

「あ、あの・・・さっきからあそこの路地裏から悲鳴が・・・」

ん？まで、おい。あそこっておい。1キロも離れとるじゃないか！？少年よ、君の聴力に拍手！！

・・・悲鳴となれば・・・

「透クン、君は危ないから待ってて」

「え？朱音さんっ！大丈夫なんですかつ！？」

ふっふっふ・・・なめてもらっちゃあいけませんぜい少年。

「大丈夫だ。一応空手の黒帯だから」

「えゝ！？まじですかっ！？」

「まじだ。じゃ、いつてくるわ☆」

さあてさて、ひっさしぶりに暴れるとすつかあ！！

「いやっ!!やだよっ!!」

路地に近づくにすれ、だんだん大きくなる声。うん・・・ひでえな・・・

「きーきー言わずについてこい!!春!!」

「いや!!いやだっ!!」

「くそっ・・・」

「うっ・・・」

うん、会話だけで殴られたってのがわかるよ。うん。

さあてと・・・

「ここから会話だけ」

「おっさんよ何やってんのかね？」

「なんだこのアマ。死にてえのか？」

「うん。まだしにたくないかな。うん。せいぜい80歳までは生きたいね」

「は？わけわからんし。今ここで死n「甘いっ！！！」うぼ！？」

人は容易く拾うな

「あーあ・・・せっかく寝ようと思ってたのに・・・占領されちった」

ども。朱音です。現在少年をベッドに寝かせて観察しとります。

「うん・・・なかなかかわいい顔してるねえこの子」

だってさ、だってさ色白くてさ、髪の毛サラサラでさ、目なんか絶対大きいよ！！しかも肌すべすべだしっ！！（触ったんかい）

でもなく・・・気絶させた奴どう見ても黒スーツに黒サングラスって言うどう見てもやーさんみたいな人だったな・・・うん。やばい。あゝ・・・なんであんどき考えずに殴ったんだろ・・・しかもその後ゴミ箱に入れちゃったし↑

まあいいや。

それよりねむ・・・い。

「ぱたっ・・・すー・・・すー・・・」

謎の少年 side

「ん・・・」

目が覚めると僕は知らない場所にいた。

「どこだここ・・・」

薄い緑で統一された小綺麗な部屋だ。

「なんか・・・重い」

右の腕に何か乗っているようだ。

「っ!?!」

な、なんだこの子っ!?!

目開けてるっ!?!起きてるのっ!?!

「すー・・・すー・・・」

・・・いや、寝てるようだ。なんか・・・すごい。

ぱっちした目。長い睫毛。白いなめらかな肌。ふわふわした黒髪。
・

・・・こんなにかわいいのに・・・もったいないな・・・。

以上。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9841y/>

メガネ男子＝萌え

2011年12月5日20時47分発行